

ここにあるや元禄潜穴

—宮城県宮城郡松島町—

兵庫県東播磨県民局地域振興室県民課
元 宮城県東部地方振興事務所農業農村整備部

合 田 弘

1. はじめに

表紙写真は、宮城県宮城郡松島町にある元禄潜穴の穴頭で「平成 27 年度災害復旧・復興に係る地方自治法派遣職員等現地視察」時に撮影したものです。



写真-1 元禄潜穴の穴頭前で集合写真

2. 元禄潜穴の概要

かつて宮城県中部に「品井沼」という広大な沼が宮城郡、黒川郡、志田郡（現在の大多市、宮城郡松島町）にまたがり存在していました。その大きさは、周囲が 16.5 km、面積が約 1,800 ha ありました。

「元禄潜穴」は、仙台藩第四代藩主伊達綱村が品井沼の氾濫をなくしたいという人々の願いのため品井沼の水を松島湾に排水すること、また、米増産のため品井沼を新田開発することを目的に造成されたトンネルです。

元禄 6 (1693) 年、大越喜右衛門に命じ、藩直轄工事が始まり、数多くの苦労と多くの犠牲者をだし元禄 11 (1698) 年に完成しました。その後も土砂の堆積や排水機能を維持することが困難になり 6 回も大改修工事が行われました。

3. 元禄潜穴の工事概要

難工事をきわめた元禄潜穴工事は、品井沼と松島湾の勾配差が 4.59 m しかありません。また、潜穴の長さが 2,578 m に及ぶため、当時の技術としては、工事が不可能だったと判断され、そのため、まず堅穴を掘

り、堅穴と堅穴の間に横穴（潜穴）を掘る手法が取られたと考えられています。

- ① 北部平堀（品井沼から穴頭まで）
長さ 1,745 m, 幅 27~54 m, 深さ 2 m
- ② 潜穴（穴頭から穴尻まで）
長さ 2,578 m, 幅 3.6 m, 高さ 2.4 m (2 連)
- ③ 南部平堀（穴尻から松島湾まで）
長さ 3,069 m, 幅 18 m, 深さ 1~2 m
- ◇合計 長さ 7,392 m, 勾配差 4.59 m,
勾配約 1/1,600
- ④ 堅穴（ずり出し穴）10 カ所

4. 「元禄潜穴」散策（発見マップの活用）

JR 東北本線「品井沼」駅を下車し、「発見マップ・元禄潜穴」（幡谷根廻地区・地域発見マップ編集委員会編）を片手に「小さな旅モデルコース（元禄潜穴コース）」を散策しました。

(1) 品井沼干拓資料館 品井沼駅から 20 分歩くと元禄潜穴の穴頭を下に見ながらすぐそばに「品井沼干拓資料館」が現れます。



写真-2 品井沼干拓資料館

館内の展示室には“工事に使われたのみ”や“ろくろ”など品井沼干拓事業に関する歴史資料が展示されており、見学には、事前に松島町教育委員会に申込みが必要となります。

(2) おまん地蔵（「おまん」さんの伝説） 東北本線沿いに約 30 分歩くと根廻児童公園内に「おまん地蔵」

と呼ばれる地蔵尊が祀られています。

写真-3の「おまん地蔵」右脇の立札には「元禄潜穴完成後、享保16(1731)年第一回目の元禄潜穴の穴掘りの工事(大改修工事のこと)で人夫頭の計算ちがいから大損をしてしまい、人夫賃が支払えなくなりました。そこで人夫頭は、工事が終わった日、潜穴の中で人夫たちにお酒を飲ませ、酔っぱらった時、穴の中に水を流して死なせてしまいました。その中には歌の上手な『おまん』という16歳の少女も呼ばれていましたが一緒に犠牲になって死んでしまったのです。これを哀れんで建てられたのが『おまん地蔵』だと言われています」と記載されています。

また、左脇の立札には「昭和60(1985)年建立のおまん地蔵堂は、平成23(2011)年に起きた東日本大震災の地震で倒壊しました。現在の地蔵堂は平成24(2012)年有志により改修されました」と記載されています。



写真-3 「おまん地蔵」堂

(3) 元禄潜穴 ずり出し穴 「土木遺産・元禄潜穴の路」の看板を見ながら、徒歩約6分で「元禄潜穴 ずり出し穴」に到着します。

潜穴付近の地質は凝灰岩を基盤とする強固なもの



写真-4 元禄潜穴 第6ずり出し穴

で、潜穴の掘り方は、穴頭から穴尻の2地点を結んだ線上に10カ所の竖穴を掘り、次いで各竖穴の底から横穴(潜穴)を掘削して連結する方法をとっています。

竖穴は「ずり出し穴」、掘り上げてできた土の山は「ずり出し山」と呼ばれ、現在でも松島町根廻界限で「ずり出し穴」の跡を見ることができます。

(4) 元禄潜穴 穴尻 徒歩約9分で「元禄潜穴 穴尻」へ、穴尻から出てきた排水は高城川に合流し、松島湾へ流れ込んでいきます。穴尻の傍らには、明治潜穴工事施工における「東宮殿下一分間停車記念碑」が建立されています。



写真-5 東宮殿下一分間停車記念碑

これは、東宮殿下(後の大正天皇)が奥州地方を行啓なされることを知り、鹿島台村長鎌田三之助らは殿下の代理人の方の視察を切望していたところ、東宮殿下自らご台覧の栄を得たもので、「天下の大工事である。中途挫折の事なく竣工せしめよ」とお言葉を賜りました。これ以降、工事関係者は一致団結し、無事に工事が完了しています。

(5) わらじ村長 鎌田三之助展示室 写真-6は、かつての「品井沼」、新田開発された農地を一望したもので、はるか向こうには「鎌田記念ホール」を見るこ



写真-6 吉田川サイホン(堤防)からの一望

とができます。

ホール内には「わらじ村長 鎌田三之助展示室」があり自分の財を投げ打ってまで品井沼干拓一筋に生き抜いた鎌田三之助翁の生涯を紹介した映像や品井沼の干拓変遷史などが展示されています。

5. おわりに

平成 27 年度の 1 年間、東日本大震災の災害復旧業務に従事するため、宮城県石巻市にある宮城県東部地方振興事務所農業農村整備部へ地方自治法派遣職員として勤務し、東松島市の宮戸島（通称「奥松島」）の農地海岸や農地などの災害復旧・復興の業務に当たりました。

東日本大震災から 5 年半が経過しようとしています。復旧・復興状況は、まだ道半ばという状況だと思っています。

「わらじ村長」の生きた教訓である維勤維儉、共同一致などの精神で復旧・復興に向け前へ進み早期の復旧・復興を心より願っております。

また、1 年間お世話になりました宮城県職員の方々をはじめ関係者の方々へこの誌面をお借りしお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

参 考 文 献

- 1) 三浦誠一：元禄潜穴，丸善仙台出版サービスセンター（2008）
- 2) 幡谷根廻地区・地域発見マップ編集委員会：発見マップ・元禄潜穴，宮城県・松島町（2002）
- 3) 宮城県：元禄潜穴（2008），<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sdsgsin-nnshisetsu-genroku2.html>
- 4) 鎌田記念ホール「鎌田三之助展示室」：草鞋村長・鎌田三之助展示室パンフレット，大崎市

学 会 ニュース

第 1 回全国高等学校農業教育研究協議会 環境技術・創造部会への出席報告

平成 28 年 8 月 3 日東京都立農芸高校において第 1 回全国高等学校農業教育研究協議会 環境技術・創造部会が開催され、来賓として学会長代理の小泉専務理事が挨拶を行いました。

昨年度まで開催されてきました農業土木教育研究協議会が改組され、今回から、林学、造園と一体となり、環境技術・創造部会として新たな体制で活動の展開が図られたものです。総勢 79 名の高校関係者の内、27 名が農業土木教員でした。

学会としましては、次代を担う人材の確保と育成が最重要課題であるとの認識から、全国 61 校の農業土木系高校に学会誌を提供していること、高校生を含む一般市民、若者向けに、当学会が果たしている役割や意義、そして技術のおもしろさを広報する展示会を開催すること、さらに、高校生に事業現場を見ていただくために学会支部を含めて支援することなどをお話しました。

今後部会の中で農業土木分科会として独自の活動を継続していく予定と聞き、学会全体として支援していくことが大切であると認識しました。



来賓として挨拶する小泉専務理事